

2. 大学の研究室紹介 -東海シリーズ No.8-



美しい景観と土の色

三重大学大学院生物資源研究科共生環境学専攻
助教授 大野 研

1. 地域の色

近年は、景観法の施行などによって、美しい景観に注目が集まっています。美しい景観を造りあげるときには、様々な考え方があるようです。しかし現代の大きな流れとしては、各地域で、それぞれの地域特性を生かした個性的な景観を整備することが重要であると言われていています。そして、景観は五感で感じるものであると言われていています。

しかしやはり、景観を感じる際には視覚が重要であり、視覚に大きく影響を与えるのが色と形であると言われていています。そのような理由から、景観整備をする際には、地域を代表するような色（以下、地域色と呼ぶ）を決め、その色との調和を目指すことが大きなテーマとなります。

2. ヨーロッパの地域の色

ヨーロッパの人々は、地域景観の質にこだわりを持っていると言われていています。例えば、パリの郊外にユーロ・ディズニーランドが出来たとき、その地域の人々からユーロ・ディズニーランドがその地域の景観を乱していると苦情が出たそうです。いわゆるディズニーランドの色彩は、アメリカのしかも西海岸の色彩であり、パリ郊外の景観と調和しないというのです。そんな訳で、ユーロ・ディズニーランドは、地域の様々なものの色を計測した後に、それと調和する色に塗り直されているはずです。

フランスなどでは、伝統ある町や村の景観を守ろうというときに、伝統的な建築物の色や周りの自然の色（木や土や石）の色を計測し、それらの色との調和を図ろうとすることが良くあります。皆さんよくご存じのように、ヨーロッパの少し大きな町並みは、石やレンガで出来ております。小さな村に行きますと土壁も目立つようになります。伝統的な町の石材や土材は、大抵の場合は地元産のものですから、ヨーロッパの伝統的な町や村で大きな面積を占める色は、地元の石や土の色と言うこととなります。

図-1に、赤土の色で有名なフランスのルシヨンという村の町並みを示します。このルシヨン村は、赤土の崖の上に立っており、この土が建築材料となっています。図-2に赤土の崖と町の様子を示します。図-3に同じくフランスのア

ルビという町の町並みを示します。ここは、バラ色のレンガで有名な町で、ピンクがかかったレンガで町が構成されています。その他にも、例えばイギリスのコッツウォルド地域では、蜂蜜色の砂岩が有名ですし、イタリアのヴェネスの漆喰には地元の黄土が配合されており、黄色みがかっていることも



図-1 ルシヨンの町並み



図-2 ルシヨンの崖と町並み



図-3 バラ色のレンガの町アルビ

知られています。

したがってヨーロッパでは、地域色は地元の土の色であるということが良くあります。

3. 日本の地域色

では日本の地域色には何を選ぶべきでしょうか？ これについては様々な意見があるでしょうが、日本でも土の色はある程度基準になると考えます。日本は雨が多いので、単純な土塀として観察されるところは少ないでしょうが、古い漆喰にはヴェニスのように地元の土が混ぜられていることが多いと思われます。またヨーロッパでは、道路の石畳の色合いが問題にされますが、日本では道路はもともと土であったでしょう。国土交通省も、伝統的建築群のところでは土色のカラー舗装を推奨しています。これがちゃんと計測された地元の土の色であれば、なおさら良い効果を生むと思われます。

土の色は、土の性質を総合的に表す指標として測定されるものですが、とりわけ農地では数多くの点で土の色が測定されています。図-4に三重、愛知、岐阜、石川、大阪、兵庫、滋賀の7県で測定された農地の表土の色を6つのクラスターに分類した図を示します（データは各県の農業試験場からいただきました）。

なかなか定量的に表現することが難しいのですが、図から、同じクラスターの点と同じような場所に集まっていることが分かります。したがって、同じクラスターの点が集まっている地域ごとに、同じような地域色を採用していけば合理的な景観整備の指標になるのではないかと考えています。

以下のような私たちの景観に関する論文を見ていただくと幸いです。

参考文献

大野ほか：色彩・形状の観点からみた数値的景観評価の試み、2002年、土木学会論文集 No.695/IV-54(pp.31-44)

大野ほか：地域・地域色・表土の関係—三重県北中部を例として—、2002年、第14回地盤工学シンポジウム発表論文集、((社)地盤工学会中部支部)

北谷、大野：フラクタルによる景観評価と人間の景観認識構造との関係、2002年、第14回地盤工学シンポジウム発表論文集、((社)地盤工学会中部支部)

大野ほか：地域景観と地域の色を生かした農村整備、2003年、農業土木学会誌 Vol.71、No.3

大野ほか：色彩のフラクタル解析を用いた河川景観の評価、2005年、土木学会論文集、No.779/IV-66(pp.119-129)

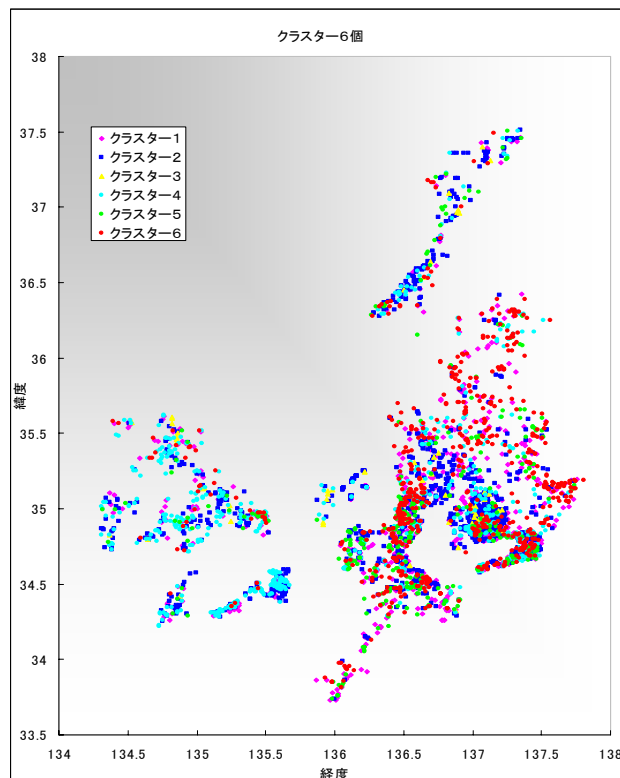


図-4 7県で測定された農地表土色の6つのクラスター

問い合わせ先：

三重大学大学院 生物資源研究科 共生環境学専攻 大野 研
住所：〒514-8507 三重県津市栗真町屋町 1577
TEL & FAX : 059-231-9584 E-MAIL : oono@bio.mie-u.ac.jp